『万葉集』を注釈した僧・契沖（けいちゅう）の足跡

高木　昌之

【目的】

今上天皇がご即位された 2019 年 5 月 1 日から新元号「令和」の時代が始まった。日本最古の歌集である『万葉集』は、「令和」の典拠となったことで改めて世間の脚光を浴びることになった。実際、福岡県太宰府市の坂本八幡宮に突然多くの観光客が訪れるなど、観光面でも大きな効果があった。そこで、この『万葉集』を大阪の観光に生かせないものかと考えた次第である。

大阪には『万葉集』ゆかりの場所はいくらでもある。しかしながら『万葉集』は 41 もの都府県が舞台となっており、しかも隣接する奈良県が一番多く詠まれていることから、他府県と差別化を図るには、大阪ならでは視点が必要ということになる。

そこで、『万葉集』そのものではなく、その注釈・研究書である『万葉代匠記』を記し、日本史の教科書にも出てくる著名人、江戸時代の国学者・契沖に着目した。

これまでの契沖研究は、彼の学問的な業績を対象としたものが中心となっている。今回の研究では、“大阪の観光”という視点から、そういった傾向とは一線を画し、契沖の辿った足跡そのものを対象としたい。具体的には、契沖ゆかりの場所をひとつひとつ掘り起し、それらを訪れる“契沖観光”或いは“契沖聖地めぐり”とも言うべき内容を提言する。

【内容】

契沖の人生において最も長く滞在したのは大阪市である。僧としての修業をスタートさせ、大きな研究成果を上げ、晩年を過ごした。生まれは隣接する兵庫県尼崎市。また、数年間寄寓した大阪府和泉市では、国学研究へと踏み出す大きなきっかけを掴んだ。

これらの地域を訪れ、そこに分布する契沖ゆかりの場所、いわゆる“契沖遺跡”を調査し、現状を報告することで、契沖の足跡を辿ることへの動機付けを行う。

【結果】

残念ながら、“契沖遺跡”で契沖存命当時の姿を残すものはない。多くは後世に建てられた石碑であり、墓所と契沖神社が僅かに異彩を放つ程度である。また環境面においても、寺が墓所への参拝を固辞していたり、歌碑の周囲が荒れ果てて近付けなかったり、井戸跡が個人邸内にあったりと、一般人が訪れるには難しい場所も多い。

それだけに、今回の研究報告を機に、これらの現状を改善しようとする機運が高まれば幸いである。

１．契沖の生涯

契沖は、1640 年（寛永 17 年）に摂津の尼ヶ崎（現兵庫県尼崎市）で、尼崎藩士の下川元全の子として生まれた。

11 歳の時、東成郡今里村（現大阪市東成区）の妙法寺に入り住職の丰定について学んだが、13 歳になると修行のため薙髪し高野山（現和歌山県高野町）に送られた。高野山では快賢に師事し、東室院、補陀落院で学んだ。1662 年（寛文 2 年）、23 歳の時に山を下り西成郡西高津村（現大阪市天王寺区）の曼荼羅院の住持となった。翌年には阿闍梨位を得ている。この時期に和学者で歌人でもある下河辺長流と親交を持つようになった。

契沖（1640～1701）
『少年文学 32 編 契沖阿闍梨』（筆者所蔵）より

1666 年（寛文 6 年）頃、馴染めなかった曼荼羅院を出て大和の長谷寺や室生寺など各地を周遊し、吉野山、葛城山を経て最終的に高野山に至る。1669 年（寛文 9 年）頃、そこで逢った辻森吉行の勧めで泉北郡久井村（現和泉市）に向かい 5 年間を過ごすことになる。辻森家の書庫には漢籍・仏典が多く、悉曇にも通ずるようになった。1674 年（延宝 2 年）には、同じ泉北郡の池田村万町（現和泉市）にある伏屋長左衛門重賢宅に移り、邸内の養寿庵にこもり和漢書の研究に精励した。

1677 年（延宝 5 年）に万町を去った後は、河内国鬼住村（現河内長野市）、住吉郡吾孫子村（現大阪市住吉区）、和泉国池田谷（現和泉市）などを転々とし、1679 年（延宝 7 年）、40 歳の時に東成郡今里村（現大阪市東成区）の妙法寺に戻り住職となった。下河辺長流は、1673 年（延宝元年）頃から水戸徳川家の依頼で『万葉集』の注釈を書いていたが病で後任に契沖を推薦。これを受け 44 歳であった 1683 年（天和 3 年）頃から代表作となる『万葉代匠記』の執筆に着手し、1687 年（貞享 4 年）に初稿本を成稿させた。その後校訂や再考を行い、1690 年（元禄 3 年）に精撰本を完成している。

51 歳になったこの年、本が完成したことに加え、母親が亡くなり養う責任がなくなったため、妙法寺住持を弟子に譲り西成郡東高津村（現大阪市天王寺区）の円珠庵に隠棲した。円珠庵の建物は万町の養寿庵を移したものである。ここで、徳川光圀から生活の援助を受けながら古典研究に没頭した。1693 年（元禄 6 年）には歴史的仮名遣を主張しそれを実証した『和字正濫鈔』を刊行している。そして、1701 年（元禄 14 年）1 月 25 日に 62 歳で没した。

契沖の生涯を振り返れば、その行動範囲は大阪府を中心に兵庫県、和歌山県、奈良県と近畿一円に及ぶが、ある程度定住したと言えるのは、兵庫県尼崎市、大阪府大阪市・和泉市、和歌山県高野町である。これらの内、高野町に関しては、大阪市からは遠隔地となることや形あるものとしては奥之院に

「契沖阿闍梨墓碑」が残るのみであることから、今回の研究対象からは除外した。

では、残る 3 区域（尼崎市・大阪市・和泉市）について、それぞれの“契沖遺跡”の現況を見てみよう。

２．兵庫県尼崎市の契沖遺跡

兵庫県尼崎市は契沖生誕の地であり、毎年「契沖顕彰短歌大会」を開催するなど活発に活動していた「契沖研究会」（2019 年（令和元年）「契沖の会」に名称変更）により、多くの碑が設置されている。

1 は事実上 2 への道案内の碑となっている。6 は櫻井神社が 1961 年（昭和 36 年）に移転した先（現境内）が契沖の生誕地であったことから、境内社を建立し学問の神として祀ったものである。7 は「昭和大典記念」として建てられ、契沖の碑としては最古のものである。8 は周囲に背の高い草が生い茂り近づくことが困難な状況となっている。

	遺跡名	場所	設置者（設置年月日）
1	「中国街道 西新田の渡跡」碑	素盞嗚神社	契沖研究会（2011.11）
2	歌碑	口の開公園	契沖研究会（2011.11.3）
3	歌碑	大覚寺	尼崎契沖顕彰会（1993.5） 中央図書館南側から移建（2001.4）
4	頌歌碑	尼崎城址公園	契沖研究会（2016.11.13）
5	生誕の比定地	中央図書館前	契沖研究会（2005.10.18）
6	契沖神社	櫻井神社	（1965）
7	「発明古義」碑	明城小学校校庭	（1928 頃か）尼崎市長桜井忠剛揮毫
	「発明古義の案内」碑		契沖研究会（2005.2.23）
8	歌碑	中島川河川敷公園	契沖研究会（2000.3）

３．大阪府大阪市の契沖遺跡

大阪府大阪市は契沖が最も長く生活し、研究の成果を上げ、最期を迎えた場所である。

9 は明治時代に 10 の持明院と合併したため一切痕跡がなく 1806 年（文化 3 年）の『増脩（ぞうしゅう） 改正攝州大阪地図』によってその位置を推測するのみである。10 は曼荼羅院の後継寺院として記載した。11 は「契沖旧庵（円珠庵）跡ならびに墓」として国の史跡に指定されているが、境内全域が撮影禁止で、契沖忌並びに墓所の参拝は 2014 年（平成 26 年）より中止されている。12 は契沖没後三百年を記念して整備されたもので、「空心契沖阿闍梨」のほか、契沖の師「丰定和尚」、契沖の母「慈性信尼」、契沖の兄「如水居士」の墓が並ぶ。

	遺跡名	場所	設置者（設置年月日）
9	曼荼羅院跡	生國魂神社北東	
10	持明院	生國魂神社参道	
11	墓所	円珠庵	（1702.1）
12	墓所	妙法寺	（2001 頃整備か）

４．大阪府和泉市の契沖遺跡

大阪府和泉市は契沖が国学の研究に足を踏み入れるきっかけを作った重要

な場所である。

13 は碑が残るのみであるが、旧伏尾家の建物と塀が残り、契沖が生きていた時代を一番偲ぶことのできる場所かもしれない。14 は契沖が寄寓した伏尾家の墓であり契沖と直接関係するものではない。16 の近くに契沖が寄寓していた辻森家があったとされる。17 は個人邸内であるが見学することは可能。但し案内がなければ極めて分かりにくい場所にある。18 は井戸があり碑が建てられているが、地元の方の話では根拠には乏しいようである。

	遺跡名	場所	設置者（設置年月日）
13	養寿庵跡	旧伏屋家	
	「史跡契沖養寿庵跡」碑		大阪府教育委員会（1957.10）
	歌碑		和泉ロータリークラブ（1985.12）
14	伏屋家墓所	石尾墓地	
15	「国学発祥之地」碑	石尾中学校正門前	和泉市長横田礒治（1963.11.3） 佐々木信綱筆
16	「阿闍梨契沖之遺跡」碑	久井町の松尾川近く	（1953.9）
	歌碑		和泉ロータリークラブ（1984.6）
17	久井之井跡	久井町の個人邸内	
	「阿闍梨契沖遺跡 久井之井」		久井町
	歌碑		尼崎契沖顕彰会（1994.6）
18	井戸跡	旧南松尾小学校南	
	「僧契沖遺愛の井戸」碑		和泉ロータリークラブ（1981 頃か）
19	「僧契沖ゆかりの寺」碑	地蔵寺	横田※（1982.8） ※植栽により名部分の判読不能

５．契沖への評価と今後の遺跡保存について

契沖は「国学」の創始者とも言われる。今では「国学」というといわゆる“右”の学問というイメージがあり、近寄りがたく思われがちである。ただ契沖に関しては古道よりもむしろ文献を尊重した学問の進め方をしており、それにはあまり当てはまらない。

契沖はその代表作『万葉代匠記』とともに教科書に記載されるほどの偉人であるにも関わらず、大阪での扱いは同時代の井原西鶴や近松門左衛門などと比較して不当に低いと言わざるを得ない。

『万葉集』が注目されたこの機会に、大阪の皆さんに改めて契沖の再評価をお願いしたいものである。

◆参考文献等

久松潜一著『人物叢書 契沖』(1963) 吉川弘文館、宇田川文海著『少年文学 32 編 契沖阿闍梨』(1894) 博文館、日本史広辞典編集委員会編『山川 日本史小辞典（改訂新版)』(2016) 山川出版社、高木昌之『水都大阪“名水”めぐり』(2017) 大阪府立大学 21 世紀科学研究機構大阪検定客員研究員平成 28 年度研究成果報告書
契沖の会<https://keityuunokai2020.wixsite.com/website>
契沖研究会の趣意と沿革<https://www3.hp-ez.com/hp/keityu/page1>
悪縁を絶つ寺鎌八幡公式ホームページ<http://kamahachiman.sakura.ne.jp/>
関西・大阪 21 世紀協会「なにわ大坂をつくった 100 人」第 23 話契沖
<https://www.osaka21.or.jp/web_magazine/osaka100/023.html>
David Rumsey Historical Map Collection Osaka 1806
<http://rumsey.geogarage.com/maps/gG14.html>

２０２１年３月６日
高木昌之氏参考資料

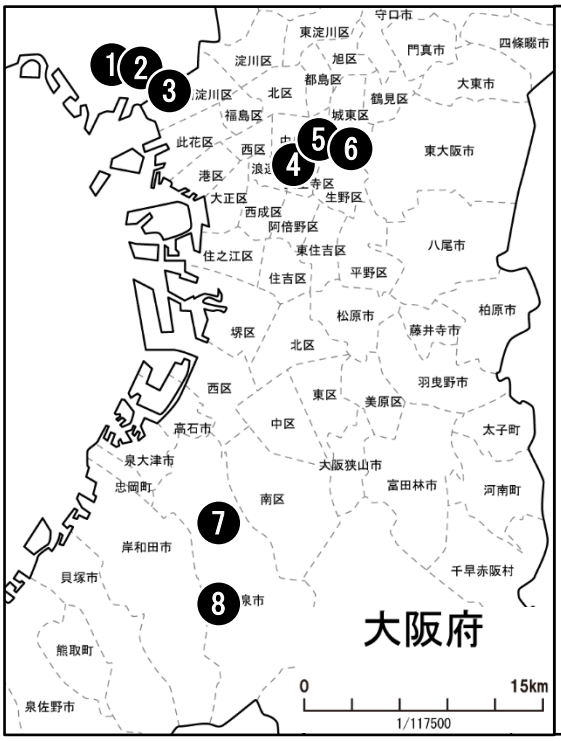
【参考資料】契沖関連遺跡の現況

1 素盞嗚神社	6 櫻井神社	11 円珠庵	16 「阿闍梨契沖之遺跡」碑
2 口の開公園	7 明城小学校校庭	12 妙法寺	17 久井之井跡
3 大覚寺	8 中島川河川敷公園	13 養寿庵跡	18 「僧契沖遺愛の井戸」跡
4 尼崎城址公園	9 曼荼羅院跡	14 石尾墓地	19 地蔵寺
5 中央図書館前	10 持明院	15 石尾中学校正門前	

★詳細位置図　その１（兵庫県尼崎市）

２０２１年３月６日
高木昌之氏参考資料

★分布図（●は詳細位置図番号）



兵庫県尼崎市

- 詳細位置図 ❶　遺跡 1 2
- 詳細位置図 ❷　遺跡 3 4 5 6 7
- 詳細位置図 ❸　遺跡 8

大阪府大阪市

- 詳細位置図 ❹　遺跡 9 10
- 詳細位置図 ❺　遺跡 11
- 詳細位置図 ❻　遺跡 12

大阪府和泉市

- 詳細位置図 ❼　遺跡 13 14 15
- 詳細位置図 ❽　遺跡 16 17 18 19

★現況写真　その１（兵庫県尼崎市）

1 素盞嗚神社

2 口の開公園

3 大覚寺

4 尼崎城址公園

5 中央図書館前

6 櫻井神社

7 明城小学校校庭

8 中島川河川敷公園

２０２１年３月６日
高木昌之氏参考資料

★詳細位置図 その２（大阪府大阪市・大阪府和泉市）

２０２１年３月６日
高木昌之氏参考資料

★現況写真 その２（大阪府大阪市・大阪府和泉市）

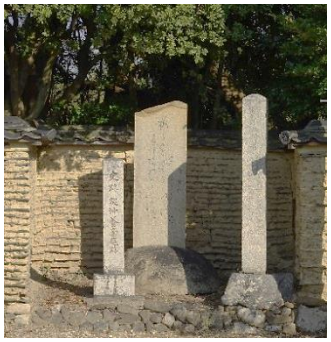
9 曼荼羅院跡

10 持明院

11 円珠庵

12 妙法寺

13 養寿庵跡



14 石尾墓地

15 石尾中学校正門前

16 「阿闍梨契沖之遺跡」碑

17 久井之井跡

18 「僧契沖遺愛の井戸」跡

19 地蔵寺